

令和 4 年 4 月 11 日現在

機関番号：99999  
研究種目：奨励研究  
研究期間：2020～2020  
課題番号：20H00704  
研究課題名 高校生のストレス要因の違いによる教師からのサポートの影響についての検討

## 研究代表者

井村 亘 (IMURA, Wataru)

玉野総合医療専門学校・専門学校教員

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 440,000円

研究成果の概要： 高校生の精神的健康に対する教師サポートと学生生活関連ストレス認知の関連について検討した。その結果、教師による勇気づける、励ます、共感するなどの情緒的サポート期待は、「友人」、「学業」、「教師」に起因するストレス認知の軽減に貢献し、間接的に精神的健康に好影響を与えることが示唆された。また、教師による勇気づける、励ます、共感するなどの道具的サポート期待は、「友人」、「教師」、「親」に起因するストレス認知の軽減に貢献し、間接的に精神的健康に好影響を与えることが示唆された。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果の学術的意義は、ソーシャルサポートがストレス認知を介してストレス反応に影響を与えるとするストレス認知理論に準拠した概念モデルが実証データによって支持されたことが挙げられる。また、本研究結果の社会的意義は、高校教師が生徒のストレス要因に配慮した支援方法の必要性を示したことである。

研究分野：学校保健

キーワード：高校生 教師サポート ストレス認知 精神的健康

1. 研究の目的

本研究は、教師が高校生の学生生活に関連するストレスの要因に配慮したサポートの提供における知見を得ることをねらいとして、高校生の精神的健康に対する教師によるサポート期待（情緒的サポート、道具サポート）と学生生活関連ストレス認知（友人、学業、教師、親）の関連を明らかとすることを目的とした

2. 研究成果

(1) 方法

仮説モデルは、教師へのサポート期待（情緒的および道具的サポート）が学生生活関連ストレス認知（親・友人・教師・学業）を介して精神的健康に影響を与えたとした関連モデルを設定した。統計解析には、高校生 344 人分のデータを使用し、構造方程式モデリングにより関連モデルのデータに対する適合性と変数間の関連性を検討した。また、モデルには性別（0 = 男・1 = 女）、学年を統制変数として投入した。なお、本研究は、ヘルシンキ宣言に基づき対象者の心身の保護を十分に行ない、倫理委員会および高等学校長の承認を得て実施した。申告すべき利益相反はない。

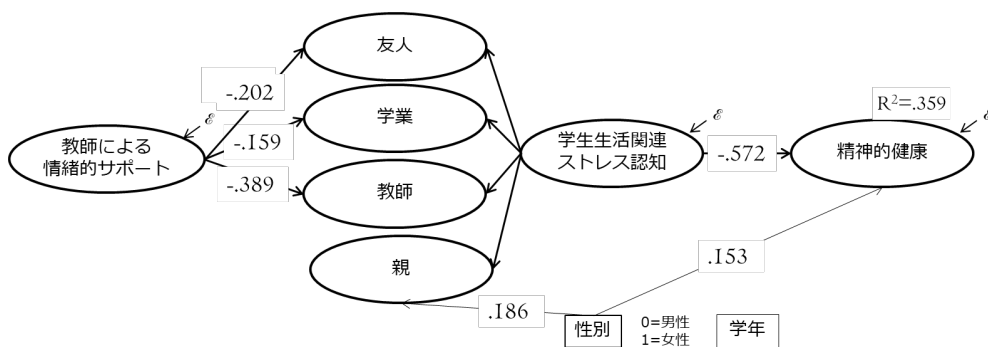
(2) 結果

教師への情緒的サポート期待が学生生活関連ストレス認知を介して精神的健康に影響を与えたとした関連モデルのデータへの適合度は、CFI = 0.980, RMSEA = 0.047 であり、統計学的許容水準を満たしていた（図 1）。変数間の関連性は、情緒的サポート期待と学生生活関連ストレス認知における友人、学業、教師に起因するストレス認知とは有意な負の関連性を示していた（-.202, -.159, -.389）。また、学生生活関連ストレス認知と精神的健康とは有意な正の関連性を示していた（.572）。なお、本分析モデルにおける精神的健康に対する寄与率は 35.9%であった。教師への道具的サポート期待が学生生活関連ストレス認知を介して精神的健康に影響を与えたとした関連モデルのデータへの適合度は、CFI = 0.990, RMSEA = 0.038 であり、統計学的許容水準を満たしていた（図 2）。変数間の関連性は、道具的サポート期待と学生生活関連ストレス認知における友人、教師、親に起因するストレス認知とは有意な負の関連性を示していた（-.203, -.400, -.143）。また、学生生活関連ストレス認知と精神的健康とは有意な正の関連性を示していた（.568）。なお、本分析モデルにおける精神的健康に対する寄与率は 35.5%であった。

(3) まとめ

本研究結果は、教師は高校生のストレス要因に配慮した支援の必要性を示唆している。具体的には、学業に起因するストレス認知に対しては、情緒的サポート期待が有効である可能性があり、親に起因するストレス認知に対しては道具的サポート期待が有効である可能性が示された。また、友人や教師に起因するストレス認知に対しては情緒的・道具的サポート期待の両方が有効である可能性が示された。

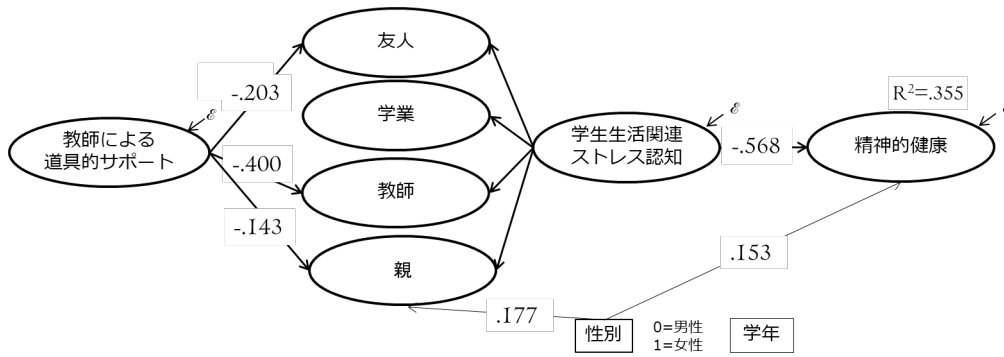
今後は、本研究結果をもとに介入研究等を実施することにより、更に実践的な知見を得ることができよう。



n=344,  $\chi^2=576.157$ ,  $df=330$ , CFI=0.980, RMSEA=0.047 (推定法: WLSMV)

※実線は有意な関連性を示す  
 ※図の煩雑化を避けるために非有意なパス、潜在変数によって観測される観測変数および潜在変数間、観測変数間、誤差変数間の相関は省略した

図1 精神的健康に対する教師による情緒的サポートと学生生活関連ストレス認知の関連



$n=344$ ,  $\chi^2=490.799$ ,  $df=330$ ,  $CFI=0.990$ ,  $RMSEA=0.038$  (推定法: WLSMV)

※実線は有意な関連性を示す

※図の煩雑化を避けるために非有意なパス、潜在変数によって観測される観測変数および潜在変数間、観測変数間、誤差変数間の相関は省略した

図2 精神的健康に対する教師による道具的サポートと学生生活関連ストレス認知の関連

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井村 亘, 石田実知子, 大東 真紀
2. 発表標題 高校生の精神的健康に対する教師サポートと学生生活関連ストレス認知の関連
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------